

言語資料 竹富方言の弱変化動詞・活用一覧

西岡 敏

1. 本資料と『竹富方言辞典』の関係

前新透[著]『竹富方言辞典』(波照間永吉・高嶺方祐・入里照男[編著]、2011年、南山舎)の中の「竹富方言の音韻・文法概説」(西岡敏・小川晋史、前掲書所収pp.1-63)に「竹富方言・動詞活用一覧」(pp.46-63)があるが、そこで提示できなかった部分を本資料によって補いたい。

『竹富方言辞典』の「竹富方言・動詞活用一覧」(以下、「一覧」)では、動詞をI類・II類・不規則類に分類している。I類が、いわゆる強変化動詞(四段系動詞)、II類が、いわゆる弱変化動詞(一段系動詞)、不規則類が、いわゆる不規則動詞(変格活用動詞)である。「一覧」では、I類の動詞(強変化動詞)について、ア行、サ行など、五十音図の行ごとの語例を提示している。また、不規則類の動詞についても、考えられる不規則動詞の例を一つ一つ挙げている。一方、II類の動詞(弱変化動詞)については、I類で行なったような行ごとの語例を提示していない。もとより、動詞の活用の種類が、I類か、II類か、不規則類かが分かれれば、語根をもとに個々の活用形を作ることができるので、行ごとの語例の提示は必要でないのかもしれない。しかしながら、学校文法における活用する行の提示に倣っていること、あるいは、具体的な活用の形式が行ごとの一覧で容易に分かることなどから、活用における行の提示は必ずしも無意味とは言えない。また、I類で行ごとの活用表を提示しておきながら、II類でそれらの提示をしていないのは、不統一、不均衡である。ゆえに、今回、II類(弱変化動詞)の行ごとの提示を行ない(また、「一覧」のI類で抜け落としてしまった「カ行 I類」の提示も付け加え)、「竹富方言・動詞活用一覧」の補遺としたい。

2. I類とII類の対立例

ここでは、I類の動詞とII類の動詞が、微妙な違いで対立している例を挙げる。

(0)は平板型のアクセント、(2)は起伏型のをアクセントを示す。

①ɸu:ŋ フーン (ア行 I 類) 「閉める」と φuiruŋ フイルン (ア行 II 類) 「起きる」
アクセントも(0)「フーン」(閉める) と(2)「フィルン」(起きる) で対立する。

ɸuənu フアヌ (閉めない)	ɸu:nu フーヌ (起きない)
ɸe:ni フイエーニ (閉めてごらん)	ɸe:ni フェーニ (起きてごらん)
ɸu:hədʒi フーハジ (閉めるはず)	ɸuiruhədʒi フイルハジ (起きるはず)

②ɸuiruŋ フイルン (ア行 I 類) 「くくる」と φuiruŋ フイルン (ア行 II 類) 「起きる」
アクセントも(0)「フィルン」(くくる) と(2)「フィルン」(起きる) で対立する。

ɸuirənu フイラヌ (くくらない)	ɸu:nu フーヌ (起きない)
----------------------	------------------

③kəiruŋ カイルン (ア行 I 類) 「帰る」と kəiruŋ カイルン (ア行 II 類) 「替える」
アクセントも(2)「カイルン」(帰る) と(0)「カイルン」(替える) で対立する。

kəirənu カイラヌ (帰らない)	kəunu カウヌ (替えない)
kəire:ni カイレーニ (帰ってごらん)	kje:ni キエーニ (替えてごらん)
kəiruhədʒi カイルハジ (帰るはず)	kəiruhədʒi カイルハジ (替えるはず)

kəiruhədʒi(2)カイルハジ (帰るはず) と kəiruhədʒi(0)カイルハジ (替えるはず)
は、アクセントのみで区別する。

なお、もとは II 類だったと考えられる「着る」を意味する ſʃuŋ ッシュンは、すでに I 類の動詞となっており、否定形は、ʃʃənu ッシャヌという。「切る」を意味する ſʃuŋ ッシュンとは、アクセントのみで対立している。すなわち、(0)「ッシュン」(着る) と(2)「ッシュン」(切る) で区別している。

3. I 類と II 類の双方がある動詞

次の動詞は、I 類（強変化）と II 類（弱変化）の双方の活用を備えている。

① oisunŋ オイスン (サ行 I 類)、oifiruŋ オイシルン (サ行 II 類) 「差し上げる」ア(0)
否定形にも、oisənu オイサヌ (サ行 I 類)、oisunu オイスヌ (サ行 II 類) の両方
の形がある。

②m:busunj シーブスン（サ行 I 類）、m:buʃirunj シーブシルン（サ行 II 類）「蒸す」ア(2)
否定形にも、m:busənu シーブサヌ（サ行 I 類）、m:busunu シーブスヌ（サ行 II 類）の両方の形がある。

③u:sunj ウースン（サ行 I 類）、u:ʃirunj ウーシルン（サ行 II 類）「負わせる」ア(2)
否定形にも、u:sənu ウーサヌ（サ行 I 類）、u:su:nu ウースーヌ（サ行 II 類）の
両方の形がある。

④ʃʃirunj ッシルン（サ行 II 類）

ʃʃirunj ッシルン「切れる」（アクセント(2)）は、肯定形はこの弱変化形のみで、
強変化形にあたる ssunj ッスンは存在しない。しかし、その否定形（「切れない」）
には、弱変化的なʃʃunu ッシュヌに加えて、強変化的なʃʃənu ッシャヌも許容される。

⑤pi:runj ピールン（ア行 II 類）

pi:runj ピールン「呉れる」（アクセント(0)、hi:runj ヒールンも可）は、肯定形は
この弱変化形のみである。しかし、その否定形（「呉れない」）には、強変化的な
pi:rənu ピーラヌに加えて、弱変化的な pu:nu プーヌも許容される。

4. マ行動詞の鼻母音化

マ行動詞については、以下のように、mi ミのところを i ～イという鼻母音で発音
しても可である。

sumirunj スミルン（マ行 II 類）「染める」ア(0)

suīrunj スイルン

əʃimirunj アチミルン（マ行 II 類）「集める」ア(2)

əʃiiʃirunj アチ～ルン

使役表現の「令める」（～させる）もマ行動詞に準ずるが、こちらは mi ミのと
ころを i ～イという鼻母音で発音するほうが一般的である (-ʃiirunj ～シ～ルン)。

əʃiiʃimirunj アチ～シミルン「集めさせる」

əʃiiʃiiʃirunj アチ～シ～ルン

5. II類の動詞（弱変化動詞）の活用表

以下、II類の動詞について、行ごとに活用表を提示する。語例は以下の通りである。II類はいずれも終止形の語尾が-ruŋ という形である。「ア」はアクセントの略で、(0)が平板型、(2)が起伏型を示すことは先述の通りである。マ行は、「見る」を含めて2例掲げる。なお、ji:ruŋ (得る) や hi:ruŋ (呉れる、pi: ruŋ も可) は、ijiruŋ や hijiruŋ、すなわち、語根末子音が-j のヤ行として解釈することも可能であるが、ここではア行に含めることとし、ヤ行とは解釈しなかった（ゆえに、ヤ行の活用表は提示しなかった）。

II類		語根末子音
ア行	カイルン kəiruŋ (替える)	ア(0)
		ゼロ
カ行	マキルン məkiruŋ (負ける)	ア(0)
		-k
ガ行	マギルン məgiruŋ (曲げる)	ア(0)
		-g
サ行	ユシリン juʃiruŋ (寄せる)	ア(0)
		-s
ザ行	ンジルン nðʒiruŋ (出る)	ア(2)
		-dz
シャ行	ミシリルン miʃiruŋ (見せる)	ア(2)
		-ʃ
タ行	アティルン ətiruŋ (当てる)	ア(0)
		-t
ナ行	カニルン kəniruŋ (兼ねる)	ア(0)
		-n
バ行	ヌッピルン nuppırurŋ (入れる)	ア(0)
		-p
バ行	シラビルン ſirəbiruŋ (調べる)	ア(2)
		-b
マ行	スミルン sumiruŋ (染める)	ア(0)
		-m
	ミルン miruŋ (見る)	ア(2)
		m
(ヤ行	イイルン ijiruŋ (得る)	ア(2)
		-j)
ラ行	ウリルン uriruŋ (降りる)	ア(2)
		-r

これらに「一覧」で提示できなかった「I類（カ行）」の活用表も補遺として付け加える。

I類

カ行	フクン fukunŋ (吹く [煙草を])	ア(2)
----	-----------------------	------

活用表の提示では、「一覧」での活用語尾を一部訂正している。また、「一覧」作成後、例えば、ヌマ numa (飲むものだ) のように、広母音の a で終わる言い

切りの形があることが判明したので、それも活用表の一行に付け加える。この語形は、ヌマ numə（飲もう）という曖昧母音のəで終わる形と対立している。

○引用文献

前新透〔著〕(2011)『竹富方言辞典』(波照間永吉・高嶺方祐・入里照男[編著])
南山舎

○謝辞

本言語資料の作成にあたり、竹富方言の話者である崎山三郎氏（1934年生・男性）にたいへんお世話になった。感謝申し上げたい。

II類（ア行） カイルン kairuŋ (替える) ア(0) 語根 kə- r 語幹 kəir-

替えない	カウヌ kəunu
替えねばならぬ	カウンタッタ ナラヌ kəunatta nərənu
替えば	カウバ kəubə (古)
※ (替えらば)	カイラバ kəirəba
替えられる	カイラリルン kəirəriruŋ
替えさせる	カイラスン kəirəsuŋ, カイラシールン kəirəʃiiruŋ, カイシールン kəiʃiiruŋ
替えようよ	カイラ (ディー) kəirə(di:)
替えるものだ	カイラ kəira (替えらむ)
替えようとも	カイラーン kəirəŋ (替えらわも)
替えたいよ	カイッタス kəittasu
替えられる (能力)	カイッシュン kəiʃsuŋ (替え切れる)、 カイウスン kəiusuŋ (替え果せる)
替えて	カイ クー kəi ku: (替えて来い)
替えて (替えてして)	カイッティ kəitti (替えてして)
替えている	カイドゥラー kəidura:
替えている～	カイル バシュ kəiru bəʃu (替えているとき)
替えていて	カイティーティ kəiti:ti (替えてしていく)、 カイビーティ kəibi:ti 、 カイッカサーニ kəikkəsa:nii 、 カイッカシー kəikkəʃii:
替えても	カイン kəinj
替えてある	カイダル kəidəru
替えた (完了)	カイター kəita:, カイッター kəitta:
替えなさる	カイオールン kəio:rūŋ

替えてごらん	キエーニー kje:ni (キエーリー kje:ri)
替えれば	カイリヤ シャルニヌ kəirija ſəruūnu (替えればよろしい)
替えればこそできる	カイリヤドゥ ナル kəirijədu nəru (替えればぞなる)
替えろ	カイリ kəiri 、カイリヤー kəirija:
替える	カイルン kəiruŋ
替えるのか	カイルンダー kəirunda:
替えるよ	カイルンドゥラー kəirundura:
替える～	カイル バシュ kəiru bəʃu (替えるとき)
替えるだろう	カイルハジ kəiruhədʒi (替えるはず)
替えるな	カイルナ kəirunə
替えた (過去)	カイタン kəitəŋ、カイッタン kəittəŋ
替えたら	カイッター kəitta:

II類（力行） マキルン məkiruŋ（負ける） ア(0) 語根 mək- r 語幹 məkir-

負けない	マクヌ məkunu
負けねばならぬ	マクナッタ ナラヌ məkunatta nərənu
負けば	マクバ məkubə (古)
(負けらば)	マキラバ məkirəbə
負けられる	マキラリルン məkirəriruŋ
負けさせる	マキラスン məkirəsuŋ、マキラシールン məkirəʃiiruŋ マキシールン məkisiiruŋ
負けようよ	マキラ (ディー) məkirə(di:)
負けるものだ	マキラ məkira (負けらむ)
負けようとも	マキラーン məkira:ŋ (負けらわも)
負けたいよ	マキッタス məkittasu
負けられる（能力）	マキッシュン məkissuŋ (負け切れる)、 マキウスン məkiusuŋ (負け果せる)
負けて	マキ クー məki ku: (負けて来い)
負けて（負けてして）	マキッティ məkitti (負けてして)
負けている	マキドゥラー məkidura:
負けている～	マキル バシュ məkiru bəʃu (負けているとき)
負けていて	マキティーティ məkiti:ti (負けてしていて)、 マキビーティ məkibi:ti 、 マキッカサーニ məkikkəsa:ni 、 マキドゥッカシー məkidukkəʃi:
負けても	マキン məkiŋ
負けてある	マキダル məkidəru
負けた（完了）	マキター məkita:、マキッター məkitta:
負けなさる	マキオールン məkio:rulŋ

負けてごらん	マケーニ məke:nī (マケーリ məke:ri)
負ければ	マキリヤ シャル～ヌ məkirijə ſəruūnu (負ければよろしい)
負ければこそできる	マキリヤドゥ ナル məkirijədu nəru (負ければぞなる)
負けろ	マキリ məkiri 、マキリヤー məkirija:
負ける	マキルン məkiruŋ
負けるのか	マキルンダー məkirunda:
負けるよ	マキルンドゥラー məkirundura:
負ける～	マキル バシュ məkiru bəʃu (負けるとき)
負けるだろう	マキルハジ məkiruhədʒi (負けるはず)
負けるな	マキルナ məkirunə
負けた (過去)	マキタン məkitəŋ、マキッタン məkittəŋ
負けたら	マキッター məkitta:

II類 (ガ行) マギルン məgiruŋ (曲げる) ア(0) 語根 məg- r 語幹 məgir-

曲げない	マグヌ məgunu
曲げねばならぬ	マグナッタ ナラヌ məgunatta nərənu
曲げば (曲げらば)	マグバ məgubə (古) マギラバ məgirəbə
曲げられる	マギラリルン məgirəriruŋ
曲げさせる	マギラスン məgirəsuŋ、マギラシールン məgirəʃiiruŋ、 マギシールン məgiʃiiruŋ
曲げようよ	マギラ (ディー) məgirə(di:)
曲げるものだ	マギラ məgira (曲げらむ)
曲げようとも	マギラーン məgiraŋ (曲げらわも)
曲げたいよ	マギッタス məgittasu
曲げられる (能力)	マギッシュン məgissuŋ (曲げ切れる)、 マギウスン məgiusuŋ (曲げ果せる)
曲げて	マギ クー məgi ku: (曲げて来い)
曲げて (曲げてして)	マギッティ məgitti (曲げてして)
曲げている	マギドゥラー məgidura:
曲げている～	マギル バシュ məgiru bəʃu (曲げているとき)
曲げていて	マギティーティ məgiti:ti (曲げてしていく)、 マギビーティ məgibi:ti、 マギッカサーニ məgikkəsa:ni、 マギドゥッカシー məgidukkəʃi:
曲げても	マギン məginŋ
曲げてある	マギダル məgidəru
曲げた (完了)	マギター məgita:、マギッター məgitta:
曲げなさる	マギオールン məgio:rūŋ

曲げてごらん マゲーニ məge:nī (マゲーリ məge:ri)

曲げれば マギリヤ シャル～ヌ məgirijə ūruūnu (曲げればよろしい)

曲げればこそできる マギリヤドゥ ナル məgirijədu nəru (曲げればぞなる)

曲げろ マギリ məgiri 、 マギリヤー məgirija:

曲げる マギルン məgiruŋ

曲げるのか マギルンダー məgirunda:

曲げるよ マギルンドゥラー məgirundura:

曲げる～ マギル バシュ məgiru bəʃu (曲げるとき)

曲げるだろう マギルハジ məgiruhədʒi (曲げるはず)

曲げるな マギルナ məgirunə

曲げた (過去) マギタン məgitəŋ、マギッタン məgittəŋ

曲げたら マギッター məgitta:

II類（サ行） ユシルン jusiruŋ (寄せる) ア(0) 語根 jus- r 語幹 jusir-

寄せない	ユヌス jusunu
寄せねばならぬ	ユスナッタ ナラヌ jusunatta nərənu
寄せば	ユスバ jusubə (古)
(寄せらば)	ユシラバ jusirəbə
寄せられる	ユシラリルン jusirəriruŋ
寄せさせる	ユシラスン jusirəsuŋ、ユシラシールン jusirəʃiːruŋ、 ユシシールン jusisiːruŋ
寄せようよ	ユシラ (ディー) jusirə(di:)
寄せるものだ	ユシラ jusira (寄せらむ)
寄せようとも	ユシラーン jusirəŋ (寄せらわも)
寄せたいよ	ユシッタス jusittasu
寄せられる (能力)	ユシッシュン jusifʃuŋ (寄せ切れる)、 ユシウスン jusiusuŋ (寄せ果せる)
寄せて	ユシ クー juʃi ku: (寄せて来い)
寄せて (寄せてして)	ユシッティ jusitti (寄せてして)
寄せている	ユシドゥラー jusidura:
寄せている～	ユシル バシュ jusiru bəʃu (寄せているとき)
寄せていて	ユシティーティ jusiti:ti (寄せてしていく)、 ユシビーティ jusibit:i、 ユシッカサーニ jusikkəsa:n i、 ユシドゥッカシー jusidukkəʃi:
寄せても	ユシン jusinŋ
寄せてある	ユシダル jusidəru
寄せた (完了)	ユシター jusita:、ユシッター jusitta:
寄せなさる	ユシオールン jusio:rulŋ

寄せてごらん ユシェーニ juʃe:nɪ (ユシェーリ juʃe:ri)

寄せれば ユシリヤ シャルニヌ juʃirijə ſəruñnu (寄せればよろしい)

寄せればこそできる ユシリヤドゥ ナル juʃirijədu nərəu (寄せればぞなる)

寄せろ ユシリ juʃiri 、 ユシリヤー juʃirija:

寄せる ユシルン juʃirun̩

寄せるのか ユシルンダー juʃirunda:

寄せるよ ユシルンドゥラー juʃirundura:

寄せる～ ユシリ バシュ juʃiru bəʃu (寄せるとき)

寄せるだろう ユシリハジ juʃiruhədʒi (寄せるはず)

寄せるな ユシリナ juʃirunə

寄せた (過去) ユシタン juʃitən̩、ユシッタン juʃittən̩

寄せたら ユシッター juʃitta:

II類 (ザ行) ンジルン ndʒiruŋ (出る) ア(2) 語根 ndz- r 語幹 ndʒir-

出ない	ンズヌ ndzunu
出ねばならぬ	ンズナッタ ナラヌ ndzunatta nərənu
出ば	ンズバ ndzubə (古)
(出らば)	ンジラバ ndʒirəba
出られる	ンジラリルン ndʒirəriruŋ
出させる	ンジラスン ndʒirəsuŋ 、 ンジラシールン ndʒirəʃiiruŋ、 ンジシールン ndʒiʃiiruŋ
出ようよ	ンジラ (ディー) ndʒirə(di:)
出るものだ	ンジラ ndʒira (出らむ)
出ようとも	ンジラーン ndʒiraŋ (出らわも)
出たいよ	ンジッタス ndʒittasu
出られる (能力)	ンジッシュン ndʒiʃsuŋ (出切れる)、 ンジウスン ndʒiusuŋ (出果せる)
出て	ンジ クー ndʒi ku: (出て来い)
出て (出てして)	ンジッティ ndʒitti (出てして)
出ている	ンジドゥラー ndʒidura:
出ている～	ンジル バシュ ndʒiru bəʃu (出ているとき)
出ていて	ンジティーティ ndʒiti:tı (出てしていく)、 ンジビーティ ndʒibi:tı 、 ンジッカサニ ndʒikkəsa:nı 、 ンジッカシー ndʒikkəʃi:
出ても	ンジン ndʒin
出である	ンジダル ndʒidəru
出た (完了)	ンジター ndʒita:、 ンジッター ndʒitta:
出なさる	ンジオールン ndʒio:rūŋ

出てごらん	ンジエーニ nđgeni (ンジエーリ nđgeri)
出れば	ンジリヤ シャルニヌ nđcirijə ſəruñnu (出ればよろしい)
出ればこそできる	ンジリヤドゥ ナル nđcirijədu nəru (出ればぞなる)
出ろ	ンジリ nđiri 、 ンジリヤー nđirija:
出る	ンジルン nđirun̩
出るのか	ンジルンダー nđirunda:
出るよ	ンジルンドゥラー nđirundura:
出る～	ンジル バシュ nđciru bəʃu (出るとき)
出るだろう	ンジルハジ nđciruhədʒi (出るはず)
出るな	ンジルナ nđirunə
出た (過去)	ンジタン nđitəŋ、ンジッタン nđittəŋ
出たら	ンジッター nđittə:

II類（シャ行） ミシルン mijiruŋ（見せる） ア(2) 語根 miʃ- r 語幹 mijir-

見せない	ミシュヌ mijunu
見せねばならぬ	ミシュナッタ ナラヌ mijunatta nərənu
見せば	ミシュバ mijubə (古)
(見せらば)	ミシラバ mijirəba
見せられる	ミシラリルン mijirəriruŋ
見せさせる	ミシラスン mijirəsuŋ、ミシラシールン mijirəʃiiruŋ、 ミシシールン mijisiiruŋ
見せようよ	ミシラ (ディー) mijirə(di:)
見せるものだ	ミシラ mijira (見せらむ)
見せようとも	ミシラーン mijirəŋ (見せらわも)
見せたいよ	ミシッタス mijittasu
見せられる（能力）	ミシッシュン mijissuŋ (見せ切れる)、 ミシウスン mijiusuŋ (見せ果せる)
見せて	ミシ クー mijī ku: (見せて来い)
見せて（見せてして）	ミシッティ mijitti (見せてして)
見せている	ミシドゥラー mijidura:
見せている～	ミシル バシュ mijiru bəʃu (見せているとき)
見せていて	ミシティーティ mijiti:ti (見せてしていて)、 ミシビーティ mijibi:ti 、 ミシッカサニ mijikkəsa:nii 、 ミシドゥッカシー mijidukkəʃi:
見せても	ミシン mijinj
見せてある	ミシダル mijidəru
見せた（完了）	ミシター mijita:、ミシッター mijitta:
見せなさる	ミシオールン mijio:rūŋ

見せてごらん ミシェーニ miʃemi (ミシェーリ miʃeri)

見せれば ミシリヤ シャルニ miʃirijə ſəruñu (見せればよろしい)

見せればこそできる ミシリヤドゥ ナル miʃirijədu nəru (見せればぞなる)

見せろ ミシリ miʃiri 、 ミシリヤー miʃirija:

見せる ミシルン miʃiruŋ

見せるのか ミシルンダー miʃirunda:

見せるよ ミシルンドゥラー miʃirundura:

見せる～ ミシル バシュ miʃiru bəʃu (見せるとき)

見せるだろう ミシルハジ miʃiruhədʒi (見せるはず)

見せるな ミシルナ miʃirunə

見せた (過去) ミシタン miʃitəŋ、ミシッタン miʃittəŋ

見せたら ミシッター miʃitta:

II類（夕行） アティルン *ətiruŋ* (当てる) ア(0) 語根 *ət-* r 語幹 *ətir-*

当てない	アトゥヌ <i>ətunu</i>
当てねばならぬ	アトウナッタ ナラヌ <i>ətunatta nərənu</i>
当てば	アトウバ <i>ətubə</i> (古)
(当てらば)	アティラバ <i>ətirəbə</i>
当てられる	アティラリルン <i>ətirəriruŋ</i>
当てさせる	アティラスン <i>ətirəsун</i> 、アティラシールン <i>ətirəʃiiruŋ</i> 、 アティシールン <i>ətisʃiiruŋ</i>
当てようよ	アティラ (ディー) <i>ətirə(di:)</i>
当てるものだ	アティラ <i>ətira</i> (当てらむ)
当てようとも	アティラーン <i>ətira:n</i> (当てらわも)
当てたいよ	アティタス <i>ətitasu</i>
当てられる (能力)	アティッシュン <i>ətissuŋ</i> (当て切れる)、 アティウスン <i>ətiusun</i> (当て果せる)
当てて	アティ クー <i>əti ku:</i> (当てて来い)
当てて (当ててして)	アティッティ <i>ətitti</i> (当ててして)
当てている	アティドゥラー <i>ətidura:</i>
当てている～	アティル パシュ <i>ətiru bəʃu</i> (当てているとき)
当てていて	アティティーティ <i>ətit:i:ti</i> (当ててしていく)、 アティビーティ <i>ətibi:ti</i> 、 アティックサーニ <i>ətikkəsa:ni</i> 、 アティドウッカシー <i>ətidukkəʃi:</i>
当てても	アティン <i>ətiŋ</i>
当ててある	アティダル <i>ətidəru</i>
当てた (完了)	アティター <i>ətitə:</i> 、アティッター <i>ətitta:</i>
当てなさる	アティオールン <i>ətio:rūŋ</i>

当ててごらん アテ一一 əte:nɪ (アテ一リ əte:ri)

当てれば アティリヤ シャル～ヌ ətirijə ſəruūnu (当てればよろしい)

当てればこそできる アティリヤドゥ ナル ətirijədu nəru (当てればぞなる)

当てろ アティリ ətiri 、 アティリヤー ətirija:

当てる アティルン ətiruŋ

当てるのか アティルンダー ətirunda:

当てるよ アティルンドゥラー ətirundura:

当てる～ アティル パシュ ətiru bəʃu (当てるとき)

当てるだろう アティルハジ ətiruhədʒi (当てるはず)

当てるな アティルナ ətirunə

当てた (過去) アティタン ətitəŋ、アティッタン ətittəŋ

当てたら アティッター ətitta:

II類（ナ行） カニルン kəniruŋ (兼ねる) ア(0) 語根 kən- r 語幹 kənir-

兼ねない	カヌヌ kənunu
兼ねねばならぬ	ナスナッタ ナラヌ kənunatta nərənu
兼ねば	カヌバ kənubə (古)
(兼ねらば)	カニラバ kənirəba
兼ねられる	カニラリルン kənirəriruŋ
兼ねさせる	カニラスン kənirəsuŋ 、カニラシールン kənirəʃiřuŋ, カニシールン kənirəʃiřuŋ
兼ねようよ	カニラ (ディー) kənirə(di:)
兼ねるものだ	カニラ kənira (兼ねらむ)
兼ねようとも	カニラーン kənirazŋ (兼ねらわも)

兼ねたいよ	カニタス kənitasu
兼ねられる (能力)	カニッシュン kəniſſuŋ (兼ね切れる)、 カニウスン kəniusuŋ (兼ね果せる)
兼ねて	カニ クー kəni ku: (兼ねて来い)
兼ねて (兼ねてして)	カニッティ kənitti (兼ねてして)
兼ねている	カニドゥラー kənidura:
兼ねている～	カニル バシュ kəniru bəʃu (兼ねているとき)
兼ねていて	カニティーティ kənititi (兼ねてしていく)、 カニビーティ kənibi:ti 、 カニッカサー二 kənikkəsa:nı 、 カニドゥッカシー kənidukkəʃi:
兼ねても	カニン kənij
兼ねてある	カニダル kənidəru
兼ねた (完了)	カニター kənita:、カニッター kənitta:
兼ねなさる	カニオールン kənio:rūŋ

兼ねてごらん	カネ一二 kane:ni (カネ一リ kane:ri)
兼ねれば	カニリヤ シャルニヌ kənirijə ſəruūnu (兼ねればよろしい)
兼ねればこそできる	カニリヤドゥ ナル kənirijədu nəru (兼ねればぞなる)
兼ねろ	カニリ kəniri 、カニリヤー kənirija:
兼ねる	カニルン kəniruj
兼ねるのか	カニルンダー kənirunda:
兼ねるよ	カニルンドゥラー kənirundura:
兼ねる～	カニル バシュ kəniru bəʃu (兼ねるとき)
兼ねるだろう	カニルハジ kəniruhədʒi (兼ねるはず)
兼ねるな	カニルナ kənirunə
兼ねた (過去)	カニタン kənitəŋ、カニッタン kənittəŋ
兼ねたら	カニッター kənitta:

II類(バ行) ヌッピルン nuppiruŋ (入れる) ア(0) 語根 nupp- r 語幹 nuppir-

入れない	ヌップヌ nuppuNu
入れねばならぬ	ヌップナッタ ナラヌ nuppunatta nərənu
入れば (入れらば)	ヌップバ nuppubə (古) ヌッピラバ nuppirəba
入れられる	ヌッピラリルン nuppirəriruŋ
入れさせる	ヌッピラスン nuppirəsunŋ, ヌッピラシールン nuppirəʃiiruŋ, ヌッピシールン nuppiʃiiruŋ
入れようよ	ヌッピラ (ディー) nuppirə(di:)
入れるものだ	ヌッピラ nuppira (貫き入れらむ)
入れようとも	ヌッピラーン nuppira:ŋ (貫き入れらわも)
入れたいよ	ヌッピッタス nuppitassu
入れられる (能力)	ヌッピッシュン nuppiʃsuŋ (貫き入れ切れる)、 ヌッピウスン nuppiusunŋ (貫き入れ果せる)
入れて	ヌッピ クー nuppi ku: (貫き入れて來い)
入れて (入れてして)	ヌッピッティ nuppitti (貫き入れてして)
入れている	ヌッピドゥラー nuppidura:
入れている～	ヌッビル バシュ nuppiru bəʃu (貫き入れているとき)
入れていて	ヌッピティーティ nuppiti:ti (貫き入れてしていく)、 ヌッピビーティ nuppibi:ti 、 ヌッピッカサーニ nuppikkəsa:ni 、 ヌッピドゥッカシー nuppidukkəʃi:
入れても	ヌッピン nuppiŋ
入れてある	ヌッピダル nuppidəru
入れた (完了)	ヌッピター nuppita:, ヌッピッター nupitta:
入れなさる	ヌッピオールン nuppio:rūŋ

入れてごらん ヌッペー二 nuppeeni (ヌッペーり nuppe:ri)

入れれば ヌッピリヤ シャルニ nuppirijə ſəruñu (貰き入れればよろしい)

入れればこそできる ヌッピリヤドウ ナル nuppirijədu nəru (貰き入れればぞなる)

入れろ ヌッピリ nuppiri 、 ヌッピリヤー nuppirija:

入れる ヌッピルン nuppiruŋ

入れるのか ヌッピルンダー nuppirunda:

入れるよ ヌッピルンドゥラー nuppirundura:

入れる～ ヌッピル パシュ nuppiru bəʃu (貰き入れるとき)

入れるだろう ヌッピルハジ nuppiruhədʒi (貰き入れるはず)

入れるな ヌッピルナ nuppiruna

入れた (過去) ヌッピタン nuppitəŋ、 ヌッピッタン nuppittəŋ

入れたら ヌッピッター nuppitta:

II類（パ行） シラビルン *ʃirəbiruŋ* (調べる) ア(2) 語根 *ʃirəb-* r 語幹 *ʃirəbir-*

調べない	シラブヌ <i>ʃirəbunu</i>
調べねばならぬ	シラブナッタ ナラヌ <i>ʃirəbunatta nərənu</i>
調べば	シラブバ <i>ʃirəbubə</i> (古)
(調べらば)	シラビラバ <i>ʃirəbirəbə</i>
調べられる	シラビラリルン <i>ʃirəbirəriruŋ</i>
調べさせる	シラビラスン <i>ʃirəbirəsuŋ</i> 、シラビラシールン <i>ʃirəbirəʃiiruŋ</i> 、 シラビシールン <i>ʃirəbiʃiiruŋ</i>
調べようよ	シラビラ (ディー) <i>ʃirəbirə(di:)</i>
調べるものだ	シラビラ <i>ʃirəbira</i> (調べらむ)
調べようとも	シラビラーン <i>ʃirəbira:n</i> (調べらわも)
調べたいよ	シラビタス <i>ʃirəbitasu</i>
調べられる (能力)	シラビッシュン <i>ʃirəbiʃʃuŋ</i> (調べ切れる)、 シラビウスン <i>ʃirəbiusuŋ</i> (調べ果せる)
調べて	シラビ クー <i>ʃirəbi ku:</i> (調べて来い)
調べて (調べてして)	シラビッティ <i>ʃirəbitti</i> (調べてして)
調べている	シラビドゥラー <i>ʃirəbidura:</i>
調べている～	シラビル パシュ <i>ʃirəbiru bəʃu</i> (調べているとき)
調べていて	シラビティーティ <i>ʃirəbiti:ti</i> (調べてしていく)、 シラビビーティ <i>ʃirəbibit:i</i> 、 シラビッカサーニ <i>ʃirəbikkəsa:ni</i> 、 シラビドウッカシー <i>ʃirəbidukkəʃi:</i>
調べても	シラビン <i>ʃirəbiŋ</i>
調べてある	シラビダル <i>ʃirəbidəru</i>
調べた (完了)	シラビター <i>ʃirəbita:</i> 、シラビッター <i>ʃirəbitta:</i>
調べなさる	シラビオールン <i>ʃirəbio:rūŋ</i>

調べてごらん シラベーニ *ſirəbeni* (シラベーリ *ſirəberi*)

調べれば シラビリヤ シャルーヌ *ſirəbirijə ſəruñu* (調べればよろしい)

調べればこそできる シラビリヤドゥ ナル *ſirəbirijədu nəru* (調べればぞなる)

調べろ シラビリ *ſirəbiri*、シラビリヤー *ſirəbirija:*

調べる シラビルン *ſirəbiruŋ*

調べるのか シラビルンダー *ſirəbirunda:*

調べるよ シラビルンドゥラー *ſirəbirundura:*

調べる～ シラビル パシュ *ſirəbiru bəʃu* (調べるとき)

調べるだろう シラビルハジ *ſirəbiruhədʒi* (調べるはず)

調べるな シラビルナ *ſirəbirunə*

調べた (過去) シラビタン *ſirəbitəŋ*、シラビッタン *ſirəbittəŋ*

調べたら シラビッター *ſirəbitta:*

II類（マ行） スミルン sumiruj (染める) ア(0) 語根 sum- r 語幹 sumir-

染めない	スムヌ sumunu
染めねばならぬ	スムナッタ ナラヌ sumunatta nərənu
染めば (染めらば)	スムバ sumubə (古) スミラバ sumirəbə
染められる	スミラリルン sumirəriruj
染めさせる	スミラスン sumirəsuŋ、スミラシールン sumirəʃiːruŋ、 スミシールン sumiʃiːruŋ
染めようよ	スミラ (ディー) sumirə(di:)
染めるものだ	スミラ sumira (染めらむ)
染めようとも	スミラーン sumiraŋ (染めらわも)
染めたいよ	スミッタス sumittasu
染められる (能力)	スミッシュン sumiʃʃuŋ (染め切れる)、 スミウスン sumiusuŋ (染め果せる)
染めて	スミ クー sumi ku: (染めて来い)
染めて (染めてして)	スミッティ sumitti (染めてして)
染めている	スミドゥラー sumidura:
染めている～	スミル バシュ sumiru bəʃu (染めているとき)
染めていて	スミティーティ sumiti:ti (染めてしていく)、 スミビーティ sumibi:ti 、 スミッカサー二 sumikkəsa:nii 、 スミドゥッカシー sumidukkəʃi:
染めても	スミニ sumiŋ
染めてある	スミダル sumidəru
染めた (完了)	スミター sumita:、スミッター sumitta:
染めなさる	スミオールン sumio:ruiŋ

染めてごらん	スメーニ sume:ni (スメーリ sume:ri)
染めれば	スミリヤ シャルニヌ sumirijə ſəruūnu (染めればよろしい)
染めればこそできる	スミリヤドゥ ナル sumirijədu nəru (染めればぞなる)
染めろ	スミリ sumiri 、スミリヤー sumirija:
染める	スミルン sumirunj
染めるのか	スミルンダー sumirunda:
染めるよ	スミルンドゥラー sumirundura:
染める～	スミル バシュ sumiru bəʃu (染めるとき)
染めるだろう	スミルハジ sumiruhədʒi (染めるはず)
染めるな	スミルナ sumirunə
染めた (過去)	スミタン sumitəŋ、スミッタン sumittəŋ
染めたら	スミッター sumitta:

※sumirunj スミルンの mi ミは語中であるため ï イという発音も可 (マ行動詞)。

II類 (マ行) ミルン miruŋ (見る) ア(2) 語根 m- r 語幹 mir-

見ない	ム (一) ヌ mu(:)nu
見ねばならぬ	ムーナッタ ナラヌ mu:natta nərənu
見ば	ムーバ mu:bə (古)
(見らば)	(ミラバ miraba)
見られる	ミラリルン mirəriruŋ
見させる	ミラスン mirəsuŋ 、ミラシールン mirəʃiiruŋ、 ミーシールン mi:ʃiiruŋ
見ようよ	ミラ (ディー) mirə(di:)
見るものだ	ミラ mira (見らむ)
見ようとも	ミーラーン miraŋ (見らわも)
見たいよ	ミッタス mittas、ミープシャ mi:buʃə
見られる (能力)	ミッシュン miʃuŋ (見切れる)、 ミウスン miusuŋ (見果せる)
見て	ミー クー mi: ku: (見て来い)
見て (見てして)	ミッティ mitti (見てして)
見ている	ミードゥラー mi:dura:
見ている～	ミール パシュ mi:ru bəʃu (見ているとき)
見ていて	ミティーティ miti:ti (見てしていく)、 ミーピーティ mi:bi:ti 、 ミッカサーニ mikkəsa:nī 、 ミドウッカシー midukkəʃi:
見ても	ミーン miŋ
見てある	ミーダル mi:dəru
見た (完了)	ミッター mitta:
見なさる	ミーオールン mi:o:rulŋ

見てごらん メーニ me:ni (メーリ me:ri)

見れば ミリヤ シャル～ヌ mirijə ſəruūnu (見ればよろしい)

見ればこそできる ミリヤドウ ナル mirijədu nəru (見ればぞなる)

見ろ ミリ miri 、ミリヤー mirija:

見る ミルン miruj

見るのか ミルンダー mirunda:

見るよ ミルンドゥラー mirundura:

見る～ ミル バシュ miru bəʃu (見るとき)

見るだろう ミルハジ miruhədʒi (見るはず)

見るな ミルナ mirunə、ムーナ mu:nə

見た (過去) ミッタン mittəŋ

見たら ミッター mitta:

※miruj ミルンの mi ミは語頭であるため i イという発音不可。

II類 (ラ行) ウリルン uriruŋ (降りる)	ア(2) 語根 ur- r 語幹 urir-
降りない ウルヌ urunu	
降りねばならぬ ウルナッタ ナラヌ urunatta nərənu	
降りば ウルバ urubə (古) (降りらば) ウリラバ urirəba	
降りられる ウリラリルン urirəriruŋ	
降りさせる ウリラスン urirəsuŋ、ウリラシールン urirəʃiːruŋ、 ウリシニルン urisiːruŋ	
降りようよ ウリラ (ディー) urirə(diː)	
降りるものだ ウリラ urira (降りらむ)	
降りようとも ウリラーン uriraŋ (降りらわも)	
降りたいよ ウリッタス urittasu	
降りられる (能力) ウリッシュン urifʃuŋ (降り切れる)、 ウリウスン uriusuŋ (降り果せる)	
降りて ウリ クー uri ku: (降りて来い)	
降りて (降りてして) ウリッティ uritti (降りてして)	
降りている ウリドゥラー uridura:	
降りている～ ウリル バシュ uriru bəʃu (降りているとき)	
降りていて ウリティーティ uriti:ti (降りてしていく)、 ウリビーティ uribi:ti 、 ウリッカサーニ urikkəsa:nı 、 ウリドウッカシー uridukkəʃi:	
降りても ウリン urin	
降りてある ウリダル uridəru	
降りた (完了) ウリター urita:、ウリッター uritta:	
降りなさる ウリオールン urio:rūŋ	

降りてごらん	ウレーニ ure:ni (ウレーリ ure:ri)
降りれば	ウリリヤ シャルニヌ uririjə ſəruñnu (降りればよろしい)
降りればこそできる	ウリリヤドゥ ナル uririjədu nəru (降りればぞなる)
降りろ	ウリリ uriri 、ウリリヤー uririja:
降りる	ウリルン uriruj
降りるのか	ウリルンダー urirunda:
降りるよ	ウリルンドゥラー urirundura:
降りる～	ウリル バシュ uriru bəʃu (降りるとき)
降りるだろう	ウリルハジ uriruhədʒi (降りるはず)
降りるな	ウリルナ urirunə
降りた (過去)	ウリタン uritəŋ、ウリッタン urittəŋ
降りたら	ウリッター uritta:

I 類 (力行) フクン ϕ kun η (吹く [煙草を]) ア(2) 語根 ϕ uk-

吹かない	フカヌ ϕ ukənu
吹かねばならぬ	フカナッタ ナラヌ ϕ ukənatta nərənu
吹かば	フカバ ϕ ukəba (古)

吹かれる	フカリルン ϕ ukəriru η
吹かせる	フカスン ϕ ukəsu η 、 フカシールン ϕ ukəʃiiru η
吹こう (よ)	フカ (ディー) ϕ ukə(di:)
吹くものだ	フカ ϕ uka (吹かむ)
吹こうとも	フカーン ϕ uka:n (吹かわも)

吹きたいよ	フキッタス ϕ ukittasu
吹ける (能力)	フキッシュン ϕ ukiʃsu η (吹き切れる)、 フキウスン ϕ ukiusu η (吹き果せる)
吹いて	フキ クー ϕ uki ku: (吹いて来い)
吹いて (吹きして)	フキッティ ϕ ukitti (吹いてして)
吹いている	フキドゥラー ϕ ukidura:
吹いている～	フキル バシュ ϕ ukiru bəʃu (吹いているとき)
吹いていて	フキティーティ ϕ ukiti:ti (吹いてしていて)、 フキビーティ ϕ ukibi:ti 、 フキッカサーニ ϕ ukikkəsa:ni 、 フキドゥッカシー ϕ ukidukkəʃi:
吹いても	フキン ϕ ukin η
吹いてある	フキダル ϕ ukidəru
吹いた (完了)	フキター ϕ ukita:、 フキッター ϕ ukitta:
吹きなさる	フキオールン ϕ ukio:rūn η

吹いてごらん	フケーニ ϕ uke:ni (フケーリ ϕ uke:ri)
吹けば	フキヤ シャル～ヌ ϕ ukijə ſəruūnu (吹けばよろしい)
吹けばこそできる	フキヤドウ ナル ϕ ukijədu nəru (吹けばぞなる)
吹け	フキ ϕ uki 、フキヤー ϕ ukija:
吹く	フクン ϕ ukun̩
吹くのか	フクンダー ϕ ukunda:
吹くよ	フクンドゥラー ϕ ukundura:
吹く～	フク バシユ ϕ uku bəʃu (吹くとき)
吹くだろう	フクハジ ϕ ukuhədʒi (吹くはず)
吹くな	フクナ ϕ ukunə
吹いた (過去)	フクトン ϕ ukutən̩、フクッタン ϕ ukuttən̩
吹いたら	フクッター ϕ ukutta: